

## 第 2 回授業 (4/21) 実習課題

### 1. 実習の準備

- 'Samba Server' の Home に、この授業専用のフォルダを作り、lit\_s という名前をつけてください。この授業では、今後データをこのフォルダに保存することにします。(他の授業のレポートなどを同じ場所にたくさん保存すると、必要なファイルを探すのに苦労します。そこで、「フォルダ」を使って適当な名前をつけ、整理しておくとう便利です。)



### 2. 日本語入力練習課題

- テキストエディタ **EmEditor** を起動してください。[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]を開いて、[EmEditor]をクリックすると起動します。
- **EmEditor** に、まずあなたの学籍番号と、名前を入力します。学籍番号は**半角**で入力します。入力が終わったら **Enter** キーを押して改行します。
- 次のテキストを入力します (**[改行]**というマークが入っているところで、**Enter** キーを押して改行してください。他の場所で改行を入れる必要はありません)。
- データは入力途中の早い段階で、ファイルとして保存しておきます。**text\_os.txt** (半角で入力します。text と os の間にアンダーバー ( \_ ) を入れます。txt は拡張子です) というファイル名をつけ、1.で作成した「lit\_s」フォルダの中に保存してください (保存が完了すると、タイトルバーの左端に、「無題」の代わりにファイル名が表示されているのが分かりますか?)。EmEditor のようなテキストエディタで作成したデータは**テキスト形式**のファイルとなります。

ヒント 1: **EmEditor** のツールバーの [指定文字数で折り返し]

または [ウィンドウの右端で折り返し] を選択すると、改行を入

れなくともテキストが自動的に折り返されて表示されます (改行が入るわけでは  
ありません。[折り返さない] を選択すると、再び横 1 行で表示されます)。



※ 一旦ファイル名をつけて保存したら、メニューバーの「ファイル」から「上書き保存」を選び、こまめに再保存して、ファイルの内容を更新します。

ヒント 2: 「上書き保存」をするには、メニューバーを使うほかに、[Ctrl] + [s] という**ショートカットキー**を使う方法があります。慣れるとこの方法が便利です。

- 次回授業開始時にファイルの印刷作業をおこない、入力結果を提出してもらいます。

あなたの学籍番号    あなたの名前    [改行] [改行] ソフトの親方 (坂村健『痛快! コンピュータ学』集英社刊より)    [改行] [改行] コンピュータにとって、ハードウェアとソフトウェア (プログラム) は車の両輪の ように大事なものであることは、すでに皆さんはよくご存じでしょう。実際のコンピ ュータにおいてはプログラムは大きく 2 つの種類に分けられます。    [改行] [改行] 1 つは基本ソフトウェアであり、もう 1 つが応用ソフトウェアです。コンピュータの 世界では、前者を OS (オペレーティング・システム) と呼び、後者をアプリケーシ ョンと言います。    [改行] [改行] 具体的な例で言えば、マイクロソフトの「ウィンドウズ」や、話題になっていた Linux といったソフトは OS であり、ワープロや表計算、あるいはゲームのソフトなどはア プリケーションの仲間です。    [改行]
---

**【改行】**

パソコンにかぎらず、たいていのコンピュータには、OSとアプリケーションの区別があります。OSとアプリケーションは、それぞれ単独ではモノの役に立ちません。この2種類のソフトウェアが揃ってはじめて使いものになるのです。**【改行】**

**【改行】**

OSとはコンピュータを利用するうえで、基本的に必要な機能をまとめたソフトウェアのことを言います。**【改行】**

**【改行】**

例えばキーボードを使って、文字を入力する。あるいは整理したデータをハード・ディスクなどに記録する。また、プリンターを使って印刷する……こうした「入力」や「出力」の処理は、およそどんな作業でも必要なことです。**【改行】**

**【改行】**

アプリケーション・ソフトウェアを作ろうとするとき、もしOSがなければ、こうした基本的な処理もそれぞれのアプリケーション側で行わなければなりません。これはあまりにも手間のかかることだし、労力の無駄になることは言うまでもありません。そこで、こうした機能を最初からプログラムとしてまとめておいたのがOSなのです。OSがあれば、アプリケーションの開発はずっと楽になります。**【改行】**

**【改行】**

またOSの働きで重要なのは、「ファイル」の管理です。ファイルとは0と1で書かれたデータやプログラムのことを指します。コンピュータはプログラムを読み込み、データを処理するわけですが、そうしたプログラムやデータは通常、外部記憶装置と呼ばれるものに保存されています。**【改行】**

**【改行】**

昔はデータもプログラムも、直接、人間がスイッチやキーボードなどを使って、そのつどコンピュータに直接入力していたものですが、それを毎回やるのはあまりにも大変です。**【改行】**

**【改行】**

そこで磁気テープやフロッピー・ディスク、最近ではハード・ディスクやCD-ROMに保存しておいて、何度も繰り返して利用するようになりました。こうしたデータやプログラムの「ファイル」を記憶装置の中に保存したり、読み込んだりするための機能が、OSには組み込まれています。コンピュータはプログラムやデータあつてのものですから、ファイルの管理はとても重要かつ基本的な操作なので、基本ソフトであるOSがその役割を果たしているというわけです。**【改行】**

**【改行】**

OSの役割は、それだけではありません。**【改行】**

**【改行】**

現在のコンピュータでは、同時に複数のプログラムを利用することが当たり前になっています。例えば、インターネットで調べ物をして、その結果をワープロで文書にするとか、音楽ソフトで好きな歌を再生しながら、友達に電子メールを送るといったことができるわけですが、そうした具合に複数のソフトを同時に利用できるのは、アプリケーションの「交通整理役」としてOSが働いているからです。もしOSがなければ、個々のアプリケーションが「自分のほうが先だ」と言い張って、コンピュータは動かなくなってしまいます。そこでOSはアプリケーション間の調整をして、同時に複数のプログラムが動くようにしているというわけです。**【改行】**

**【改行】**

このように個々のアプリケーションでは対応するのが面倒だったり、アプリケーションだけでは解決できない処理を一手に引き受けてくれるのが、OSです。言うなれば、ソフトウェアの親方であり、また陰の大親分というわけです。**【改行】**

(以上)